



Title	学生の意見を取り上げる方策について：クラス代表懇談会
Author(s)	高杉, 英一; 新居, 佳子; 真鍋, 昭治郎 他
Citation	大阪大学大学教育実践センター紀要. 2008, 4, p. 53-62
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12751
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

学生の意見を取り上げる方策について

—— クラス代表懇談会 ——

高杉 英一・新居 佳子・眞鍋昭治郎・山成 数明

A way to hear students' opinions: an informal talk

Eiichi TAKASUGI, Yoshiko ARAI, Shojiro MANABE, and Kazuaki YAMANARI

Listening to students' opinions on improving university education is an important but difficult issue. In order to enable this, it is essential to organize an informal talk between them and the officials in charge of university education. It is also necessary to appoint student representatives. We selected these representatives from classes comprising about 50 students according to the department to which they belong. This informal talk was quite successful, and we observed that representatives actively ascertained the opinions of their classmates.

1. はじめに

共通教育を企画運営している大学教育実践センターでは、学生の声を聴くことの重要性を十分認識し、その方策を探ってきた。目安箱を置く、ウェブやメールを通して意見を聴く等の方策もあるが、学生に発言する機会を設け、その意見を直接聞き、改善に役立てることは一層重要であると考えていた。学生との直接“対話”を持つ、学生の声に真剣に耳を傾ける、またそこでの意見を取り上げ可能な改善を速やかに行うことは、学生が「正当な意見を言えば大学は答えてくれる」という経験を体験し、学生が大学キャンパスを自分たちの学びの場所と考えてもらうために、まず踏み出すべき課題と考えた。また、大学が教育についての考えを直接話しかける機会にもなると考えた。

当センターでは、大学でのすべてのアクティビティーを教育ととらえる「ナレッジキャンパス」の早期実現を目指している。このためには、大学の“知”の蓄積を教員だけの占有物とせず、学生や職員に解放し、教職員と学生が共有し教育に活用すること、またキャンパスを「教員と学生の対話」が日常的に行われる場とすることが重要である。このためには、場を作ること、教員の教育への理解と参加、また学生が教職員と協働して自発的な活動をするためのカリキュラムの作成が必要となる。このための一歩として、大学キャンパスを「私のキャン

パス」と考えるムードの醸成が必要となる。学生の声を直接聞く活動は、ナレッジキャンパスに向けての第一歩と考えた。

学生の声を聞く活動を始めるに際して問題となったことは、意見を聞く学生の代表をどう選ぶかであった。自治会がほとんど機能していない、サークルの母体である文化会や体育会の代表では学生全体の意見にはなれない、といったわけで、現在大学において学生の意見を組織的に聞くことは大変困難な状況になっている。学生生活委員会の下部組織の課外活動小委員会では、課外活動の特性から文化会や体育会等の代表の参加を求め、意見を述べたり決定したりする機会が設けられているが、教育全体についての意見を聞く代表にはなりえない。このような検討のなかで、大阪大学には、学科毎に50名程度のクラスが構成され、そこには各学部から選ばれた担任が配置され、学生の中からクラス代表と副代表がそれぞれ1名選出されていることに気がついた。クラス代表の役割は、センターからクラスの学生への事務連絡や印刷物の配布などの事務的なメッセンジャーとしての役割が主であった。この役割に、クラスの意見を集め、センターに伝える役割を持たせるようにすれば、代表に成る学生の役目も意味のあるものになると考えた。

以下、どのようにして学生の声を直接聞く企画をたて実行したかを具体的に説明する。

2. クラス代表の役割の再定義とクラス代表懇談会

1) クラス代表は、いつどこで決めるか？

平成18年度までは、4月の年度初めにクラス学生と担任による「クラス懇談会」が開催されていて、履修指導等が行われていた。したがって、この機会にクラス代表と副代表を選出することができた。しかし、平成19年度からは新学務情報システムKOANが導入され、オンラインで履修登録・シラバス参照等を行うことが可能となった。これにともない学年暦も早められ、共通教育一斉の「クラス懇談会」は取りやめになった。しかし、クラス担任（センターから各学部へのクラス担任選出依頼は12月）はそれぞれの学部で従来どおり選ばれたので、今年度は「学部別履修指導」や「学部独自のクラス別懇談会」等の機会を利用して、クラス代表と副代表を選出していただくことにした。

2) クラス代表の選出手順は？

クラス代表の選出にあたっては、まず3月にクラス担任教員へ選出依頼の文書をセンター長名で送付している。この文書を付録Aに示す。その依頼内容は、まず①メールによる「学生連絡」の周知である。これは、大学教育実践センターと学生との連絡を緊密にするために、学内のメールアドレス（学部別履修指導で配布）に必要事項を連絡することがあるので、その旨を伝えていただくことである。そして次に、②クラス代表ならびに副代表の選出依頼である。この際には、まずクラス代表の役割について以下の2項目を話していただいている。

＜クラス代表の役割＞

1. 各セメスターに開催されるクラス代表懇談会に出席し、クラスの意見を伝える役目を務めます。
 - ・ 各セメスターごとに、クラス代表懇談会を最低1回は実施します。
 - ・ クラス代表懇談会は、センター専任教員と学生のクラス代表で構成します。
 - ・ 授業・カリキュラムや学習環境など、大学教育実践センターが関係する問題全般についてセンター専任教員と学生で話し合い、改善に役立ちます。
2. 大学教育実践センターが関係する問題全般について、意見を述べて頂き、改善に役立ちます。ご意見は、「opinion@cep.osaka-u.ac.jp」のメールアドレスへお送りください。

上記のクラス代表の役割を明示した後に、クラス代表と副代表を選出していただく。そして、選出されたクラス代表と副代表には、クラス代表の義務と役割を明示したセンター長名の「クラス代表の皆さんへ」という文書を渡していただいている。この文書を付録Bに示す。最後に、選出された代表と副代表の名前と連絡先、メールアドレスを別紙に記入の上、共通教育教務係まで提出してもらっている。平成19年度の場合は、4月中旬に選出していただくよう依頼し、63クラス中62クラスで選出することができた。

3) クラス代表懇談会の開催手順は？

クラス代表懇談会は、1年生に対し、前期は5月、後期は11月に1回ずつ開催している。この開催方法について、具体的に述べる。

まず、クラス代表名簿一覧を教務係で作成していただく。このメールアドレスを集めて、クラス代表のメーリングリストclassrep2007@cep.osaka-u.ac.jpを作成する。このメーリングリストは、セキュリティを考慮して特定の個人だけが送信できるように作成している。

クラス代表懇談会は、クラス代表学生が一番集まれる時間帯、つまり昼休みの時間（12:10～12:50）を使って開催している。したがって、弁当と飲み物はセンターが用意している。開催日時が決まると、センター長名の案内状をクラス代表に上記のメーリングリストを使って送付する。この案内状を付録Cに示す。クラス代表の都合が悪い場合は、副代表に代わりに出席してもらう。メールを送付しても、約10件程度は返却されてくる。これは、アドレスの記入ミスや入力ミス等によるものである。メールが届いていない代表学生については、教務係で「学生呼び出し」してもらい、案内文書を直接手渡している。その際に、正しいアドレスを確認し、メーリングリストの内容を更新している。

3. クラス代表懇談会の実施

クラス代表懇談会には、センターの専任教員全員とクラス代表が出席する。開催場所は毎回、大学教育実践センター6階大会議室であるが、ほぼ満員状態となる（図1）。

内容は、まずはじめにセンター長の挨拶があり、その後すぐに食事が始まる。頃合をみて、センターからの連絡や報告事項があれば、クラス代表に伝える。

食事が終わるところから、本格的に懇談会が始まる。授



図1. クラス代表懇談会の様子①

業・カリキュラムや学習環境など、大学教育実践センターが関係する問題全般について、意見や要望を求める。発言がある学生に挙手してもらい、マイクを使って発言してもらう（図2、図3）。関連する内容があれば、他の代表に続いて発言してもらう。



図2. クラス代表懇談会の様子②



図3. クラス代表懇談会の様子③

センター側で答えられる内容や答える必要がある要望・意見については、センター長以下専任教員の適任者が答える（図4）。

懇談会は実質的には30分程度の短い時間なので、でき



図4. クラス代表懇談会の様子④

るだけ多くの代表の発言を求めるが、すべての代表が発言することはできない。

前期1年生クラス代表懇談会における要望や意見

1. 全学共通教育での授業全般について、問題点・改善する点・提案等がありましたら記述ください。
2. 教育設備について不備なところ、希望する設備等がありましたら、書いてください。
3. その他のことで、大学に要望することがありましたら、記述ください。

そこで、発言内容も含めて出席者に上のような3項目のアンケートを書いてもらっている。それらを後日まとめて懇談会意見一覧を作り、すぐ取り入れることができる要望については改善を行い、予算措置が必要なものについてはセンターの計画に入れるようにしている。懇談会意見一覧には、それぞれの意見・要望に対してセンター側が対応策を記入し、次のクラス代表懇談会で学生に配布するという形でフィードバックを行なっている。さらに、当日の様子は、センター発行の『共通教育だより』（低学年学生向け共通教育広報誌、年2回発行）の誌上において報告されている。

4. 発言とアンケートの整理

まず、これまで開催された全4回（平成18年度前期・後期、平成19年度前期・後期）のクラス代表懇談会における参加者数を表1に示す。これを見ると、クラス代表に選出された学生は、概ねクラス代表懇談会に参加しているといえる。

つぎに、実際に得られた学生の意見・要望に関しては、以下のとおりであった。

表1
1年生全クラス代表数に対する
クラス代表懇談会参加者の数

	全クラス代表数	参加者数 (人)
平成18前期	62	57
後期	62	49
平成19前期	62	50
後期	62	42
計	248	198

1) 発言

発言の内容は、複数開講の場合に学生が行きたいクラスを選択できないか、成績評価の透明性への要望、第2外国語へのTAの配置要望、広い教室での試験における不正行為防止要望、自転車事故の対策要望、平成20年度からの学生数の増加に伴う食堂の混雑について複数の学生から緩和対策要望等であった。

なお、発言時の様子からは、回を追うごとに、あるいは前期に比べて後期になると、発言内容を整理し端的に伝える、クラスの学生の意見や要望も事前にまとめてくる(図5)といったように、発言の仕方にもクラス代表自身による工夫が見られるようになってきた



図5. 携帯のメモを参照しながら意見を述べる

印象を受ける。少なくとも発言を行うクラス代表からは、このクラス代表懇談会を、効率的に教員(大学側)に意見を伝える場として、積極的に活用しようという姿勢が感じられる。このことからまた、1.で述べたとおり、クラス代表が単なる事務的のメッセンジャーではなく、意味のある役目として、責任感を持って機能していることも示唆される。

2) アンケートへの回答

全4回のアンケートの回答数は表2のとおりである。参加したクラス代表からは非常に多くの回答を得られているといえる。

懇談会で発言をしなかったクラス代表も、アンケートを使って積極的に意見を述べており、中には、「～という意見を聞きました」「…という声があった」など、ク

表2
1年生クラス代表懇談会のアンケートに
おける回答数(複数回答可)

	回答数
平成18前期	80
後期	111
平成19前期	201
後期	92
計	484

ラスの学生の意見を伝えるものもあった。発言をしたクラス代表同様、クラス代表懇談会の意義を理解し、クラス代表としての役目を果たしている。また、アンケートの回答には「この会をもっと増やしていいと思う。」「こういう会はもう少し数増やしてはどうでしょうか?」といった内容も見られ、この懇談会は肯定的に捉えられているといつてよい。

それぞれの項目における回答数は、表3のようになっていた。

表3
1年生クラス代表懇談会のアンケートにおける
各項目の回答数(複数回答可)

	授業全般	教育設備	その他
平成18前期	39(1)	41(2)	— ^{a)}
後期	44	42(1)	25
平成19前期	70	85(2)	46
後期	26	35	31(1)
計	179(1)	203(5)	102(1)

注) () 内は其中で改善を必要としない回答の数を表す(「特になし」「不満はない」「十分である」等)。

a) 平成18前期のアンケートでは、「その他」の欄を設けていなかった。

これを見ると、授業全般についての記述に比べ、教育設備についての要望が多くなっている。また、その他についても他の2項目ほどではないが、かなりの意見が述べられている。授業についての意見・要望は、センターでは全学共通教育科目を対象に「授業改善のためのアンケート」(授業評価アンケート)を実施し、これまでも取り上げてきた。したがって、クラス代表懇談会は、教育設備など、授業に関する以外の要望を取り上げることのできる機会として機能を果たしているといえる。

各項目に対する回答として多く挙げられた内容は、具体的には、「1. 全学共通教育の授業全般について」は休講通知の徹底やWebCTの活用推進の要望、講義情報

(シラバス)をわかりやすくしてほしい、他学部の学生や留学生と一緒に授業を受けたい等、「2. 教育設備について」は、縦に長く平坦な講義室では黒板が後ろからは見えにくい、マイクやプロジェクタなど機器の調子が悪い時がよくあるといった意見、「3. その他のことで」は、食堂の増設、駐輪場の増加、スクールバスの増便といった要望であった。

しかし、ここで注意すべき点がある。それは、これらの分類は記入した学生各々によるものである、ということである。実際、これらの回答においては、上で挙げたような食堂やスクールバスの問題といった本来ならば「その他」に入れるべき内容も「教育設備」に入っていたりした。2. で述べたように、すぐ取り入れることができる要望については改善を行い、予算措置が必要なものについてはセンターの計画に入れるためには、回答内容の分類は大学側のシステムに従うことになる。そこで、全回答について、予算項目など教員側の観点からの再分類を試みた。その結果、それぞれの項目の回答数は、表4のようになった。

表4
再分類された、1年生クラス代表懇談会の
アンケートにおける各項目の回答数(複数回答可)

	授業全般	教育設備	その他
平成18前期	35(1)	28(2)	17
後期	44	25(1)	42
平成19前期	55	43	103(2)
後期	25	22	45(1)
計	159(1)	118(3)	207(3)

注) () 内は其中で改善を必要としない回答の数を表す
(「特になし」「不満はない」「十分である」等)。

これによると、全回答のうち、「その他」に含まれる回答がかなり多くあったことがわかる。高校まではすべて担任の先生に言えばよかったわけであるが、その延長か、実に、あらゆる要望がこのクラス代表懇談会でセンターに伝えられる。中には、「ミールクーポンを釣りが出ても使えるようにしてほしい(3食, DonDon)。(注. 3食は生協3階食堂, DonDonは同じく生協DonDon食堂のこと)」「体育会の部活に補助金を出してほしい。」「図書館に専門書以外も多少は置いてほしい。」「サイバーメディアセンターの開館時間を延長してほしい」など、他が管轄している問題も含まれている。

このようなことが起こる可能性として考えられるのは、もしかすると、学生がこのような意見を言いに行く

ところが他にない、あるいは機能していないのかもしれない、ということである。この場合は、担当の組織にセンターとして伝えることは可能である。

しかしながら、もっと根本的な問題として、何が何に関する問題なのか、どこで扱っている問題なのかを学生はわかっていない。クラス代表懇談会によって、この点が明らかに示された。大学に入ったばかりの1年生のため無理はないが、実際、クラス代表懇談会での発言に対する「それは△△に言って下さい」といった教員側の答えや、前期の意見・要望に関する対応策を後期に一覧として渡されたものに対し、アンケートで「この会議についてだが『それは我々の管轄ではない』ような返答が多すぎるように思う。学生は管轄など分からないのだから、もっと自由に質問できるようにしてほしい。…」といった意見も見受けられる。現実問題として、大学生活にも差し支えるだろうし、学生に「たらい回しにされる」という感覚を持たせないためには、こういった、何がどの管轄かという情報もきっちり伝えていく必要がある。大学のことを、自らが学ぶ環境として知っておいてほしい。しかるべき行動をとり、自分の意見を伝えてもらいたい。余談ではあるが、センターでは現在、新入生に必要と考えられる情報を簡潔にまとめた携帯用小冊子『新入生ハンドブック(仮称)』を作成中(2008年4月配布予定)であり、その中では、これらの意見を反映し、これこれの時は何を見ればよいか、誰に聞けばよいか、どこに行けばよいか、といったことについてもまとめられている。こうした取り組みによって、行き違いが解消すれば、また教室・設備などに対するもっともな要望を受け、これを機に少しでも改善されれば、学生の意見を取り上げる方策としてのクラス代表懇談会の機能は今以上に高まることが期待される。適切な意見をよりスムーズに取り上げられるようになり、「学生が正当な意見を言えば大学は答えてくれる」という経験を学生自身が持つことにつながっていけると考える。

5. まとめ

学生の意見を直接聞くことを目的にした、クラス代表懇談会は、平成18年に開始し4回行った。少し驚いたことは、クラス代表はクラスの学生の意見を聞いたり、とりまとめたり、準備して参加している学生がいることであった。また、学生の意見は実践センターが関与する範囲をこえて広範なものであった。この意味で、学生は日頃気づいたことを訴える機会を与えることができたと思

える。改善すべきことは多くあるが、その中でも学生の意見への迅速な対応をとることが重要で、そうしなければ学生は意見を言う意義を失ってしまう。このことは、重要な課題である。

現在、建物の一部を学生のためのオープンスペースに変更する計画が進行中である。その機会を利用して、授業の一環として学生に部屋の仕様策定の企画に参加させたが、想像以上のがんばりを示した。このようなことから、学生の直接の意見を聞く方策を持つことは、教育

を考える上でも非常に意味のあることだと考えている。

(たかすぎ えいいち 理事・副学長,
前大学教育実践センター長)

(あらい よしこ 大学教育実践センター・助教)

(まなべ しょうじろう
大学教育実践センター・教授)

(やまなり かずあき 大学教育実践センター・
教授)

付録A. クラス担任教員へのクラス代表選出依頼文書

クラス担任教員 各位殿
「学生連絡」と「クラス代表」の選出についてのお願い

大学教育実践センター長 高杉 英一

大学教育実践センターでは、学生と教員の対話を重視し、学生の声を反映した共通教育の実現をめざしたいと考えております。そのため、以下に述べますようにメールによる「学生連絡」とクラス代表ならびに副代表（クラス代表代理）の選出を行いたいと考えております。クラス担任の先生方には、学部履修指導（4月3日）や学部独自のクラス別懇談会等の機会を利用して、以下の2点をご指導いただきますよう、お願いいたします。

〈1〉メールによる「学生連絡」について

大学教育実践センターでは、学生との連絡を緊密にするために、学内のメールアドレス（学部別履修指導で配付予定）を通じて、全学生に必要事項を連絡することもあります。その旨を学生に、周知してください。

なお、学外から学内のメールアドレスにアクセスする場合は、情報教育のWebメールアドレス

<http://webmail.esc.cmc.osaka-u.ac.jp/>

にログイン、ID、パスワードを入力すれば接続可能なことを、ご説明ください。

〈2〉クラス代表ならびに副代表（クラス代表代理）の選出について

1. 下記のクラス代表の役割をご説明ください。

〈クラス代表の役割〉

まず、「この制度は、学生の意見を大学教育に反映し、より充実した共通教育の実現をめざすために設けていますので、その趣旨を理解して協力してください。」と、全クラス学生に伝えてください。

次に、クラス代表の役割である以下の2項目を、お話しください。

①各セメスターに開催されるクラス代表懇談会に出席し、クラスの意見を伝える。

- ・各セメスターに学年ごとに、クラス代表懇談会を最低1回は実施する。
- ・クラス代表懇談会は、センターの専任教員と学生のクラス代表で構成する。
- ・授業・カリキュラムや学習環境など、大学教育実践センターが関係する問題全般についてセンターの専任教員と学生で話し合い、改善に役立てる。

②大学教育実践センターが関係する問題全般について、意見を述べることができる。

2. 次に、クラス代表と副代表（クラス代表代理）を選出してください。

3. 最後に、選出された代表の名前・連絡先等を別紙に記入させ、共通教育教務係（管理講義棟A棟・2階）に4月27日までに届けください。また、同封の「クラス代表の皆さんへ」を、クラス代表と副代表にお渡しください。

以上、よろしくお願いいたします。

付録B. 選出されたクラス代表と副代表に渡される文書

クラス代表の皆さんへ

大阪大学大学教育実践センター長 高杉 英一

この度はクラス代表（または副代表：クラス代表代理）を引き受けていただき、ありがとうございました。

大学教育実践センターでは、皆さんの意見を大学教育に反映し、より充実した共通教育の実現をめざしたいと考えております。

皆さんの活動は、クラスの代表という重要な役割を担っており、また、大阪大学の共通教育改善につながることを十分御理解いただくよう、お願いいたします。

皆さんの大阪大学のために、ご協力よろしくお願いいたします。

クラス代表にお願いしたい役割は、以下の2点です。

〈クラス代表の役割〉

1. 各セメスターに開催されるクラス代表懇談会に出席し、クラスの意見を伝える役目を務めます。
 - ・各セメスターごとに、クラス代表懇談会を最低1回は実施します。
 - ・クラス代表懇談会は、センター専任教員と学生のクラス代表で構成します。
 - ・授業・カリキュラムや学習環境など、大学教育実践センターが関係する問題全般についてセンター専任教員と学生で話し合い、改善に役立てます。
2. 大学教育実践センターが関係する問題全般について、意見を述べて頂き、改善に役立てます。ご意見は、「opinion@cep.osaka-u.ac.jp」のメールアドレスへお送りください。

選出された代表の学生は、名前・連絡先・メールアドレス等を別紙に記入し、クラス担任に渡してください。学内のメールアドレスを通じて、大学教育実践センターからの連絡等を行いますので、ご覧いただくようお願いいたします。

なお、学外から学内のメールアドレスにアクセスする場合は、情報教育のWebメールアドレス <http://webmail.esc.cmc.osaka-u.ac.jp/> にログイン、ID、パスワードを入力すれば、接続することができます。

付録C. クラス代表懇談会の案内状

2007年 5 月

一年生クラス代表 各位殿

大学教育実践センター長 高杉 英一

大学教育実践センターでは、学生の皆さんの意見を大学教育に反映し、より充実した大阪大学の共通教育の実現をめざしたいと考えております。

そこで、下記の日程で前期の1年生クラス代表懇談会を開催いたしますので、必ず御出席をお願いいたします。このクラス代表懇談会は、センター専任教員（14名）と学生のクラス代表で構成し、授業・カリキュラムや学習環境など大学教育実践センターが関係する問題全般について、センター専任教員とクラス代表で話し合う会議です。

クラス代表が出席できない場合は、副代表が代理で出席して下さい。二人とも欠席の場合は、「***@cep.osaka-u.ac.jp」まで連絡下さい。

なお、会合は昼休みの時間帯で行いますので、センターで弁当と飲み物を用意します。

〈前期1年生クラス代表懇談会〉

日 時：5月30日（水）12時10分～12時50分

場 所：大学教育実践センター管理講義棟A棟6階大会議室

議 題：1. 大学教育実践センターからのお願い

2. 授業・カリキュラムや学習環境などに関する意見や要望

また、大学教育実践センターが関係する問題全般については、いつでも意見・要望を述べることができます。ご意見は、「opinion@cep.osaka-u.ac.jp」のメールアドレスへお送りください。

以上、よろしくお願いいたします。